

## カルチャーショックの八ヶ岳

期日 2016 3月19日～20日

メンバー CL 西岡康広 SL 土屋康広 会計 室 昌美 大木 裕見子

春分の日、天候は雨、雪であればそれも楽しいが、この時期の雨はいただけない、しかしピーポイント天気予報は、午後から回復と予想されている。

19日早朝、千葉を出て、双葉SAで2時間程の雨宿り、空は見事に青空が出た。

今年の冬の山行は、1月の奥穂高 2月の蝦夷富士 羊蹄山とも敗退している。

この冬、最後の八ヶ岳 赤岳は雪を、覚悟であったが青空が出て、リベンジが出来そうだが、美濃戸口からは、徒歩、以前ならば「山屋は歩くのみ」と車を横目に、黙々と重いザックを背に、ひたすら歩いた、今回は美濃戸山荘まで、車パジェロの座席の中、道を譲ってくれる登山者に(すみません 先に失礼します)と、なぜか黙礼してしまう。

雨 車と始まったこの山行、軽いサブザックを背に赤岳鉱泉には、2時間程で到着、今回は、テントではなく小屋泊まりだ。

私にとって、45年前に冬山を登り始めた頃、泊ったのが行者小屋、それ以後冬での小屋泊りは、冬季小屋を使用した事はあるが記憶にない。

小屋は電気ヒーターが室温を上げ、暖かい、さっそくビール、ワインで乾杯、夕食はシャブシャブ、ホッケ(?)の焼き魚等々の料理にびっくり、ここは山小屋なのかと疑ってしまう、私は観光に来たのではないと、思いつつ、これも有りかと受け入れてしまう自分?

20日の朝食はご飯をお代わり(元を取らねば)、小屋を7:30分に出る(のびり ゆっくり)地蔵尾根の上部から、ザイルのアンザ レインで登頂、山頂は老若男女で一杯だ(我々もその一員)、赤岳からの下山は順番待ち、小屋に14:00に到着、気持ちは温泉と飛んで行く、夕食はレストラン ペチカで食事、食後のデザートとコーヒと等々、高速では大木さんが運転、しかし道路は事故渋滞2度、千葉には24:00に到着(ご苦労様でした)。

今回の山行は、これまでの私の山行と違っていた、山行スタイルが変わった、小屋泊まり、食事、荷はサブザック、こんな事、有りか、有です、山が変わったか、我々が変わったか(どちらも変わった)、いかに山を楽しむか、そんな事を考えながらの山行であった。

記 土屋